

としょかんの広場

歴史講座「大久保新田の誕生～裁許絵図の分析を中心に～」

中央図書館では、2月21日(土曜日)に、千葉県文書館 古文書調査員 笹川裕さんによる歴史講座「大久保新田の誕生～裁許絵図の分析を中心に～」を開催しました。



笹川さんは現在、千葉県文書館に勤務されており、以前は習志野市内の中学校で社会科教員を務められていました。習志野市史の編纂にも携われ、寿学級や公民館講座などで講師としてもご活躍されています。

今回は裁許絵図を貴重な資料として丁寧に読み解きながら、大久保新田がどのような経緯をたどって成立したのか、その背景や当時の状況にも触れつつ、分かりやすくご講義いただきました。

ご自身もかつては、本大久保にお住まいだったそうです。

裁許絵図とは、

近世の地境などの訴訟(論争)の際に作成される、判決の内容を記した大判の絵図。
(『千葉 いまむかし』No.29 2016.3より)

習志野市は、明治22年に谷津村・久々田村・鷺沼村・藤崎村・大久保新田の合併により津田沼村として発足しました。その後、明治36年に津田沼町へと移行し、昭和29年には実籾村が加わって習志野市となりました。なお、大久保新田は津田沼村の発足に伴い、「大久保」へと名称が改められたと伝えられています。

江戸時代、このあたりは小金牧(こがねまき)と呼ばれ、大きな放牧場でした。その牧草地の所有をめぐる裁判があった時に、この裁許絵図が作られたそうです。

現在の久保地区付近の習志野市と船橋市との市境が今の大通りに沿う形ではなく少しずれているのは、この時の境界線が基になっているためとされています。



「新田之場所」と書いてあります。
『小金牧大絵図』千葉県文書館所蔵綿貫家文書



みなさん熱心に聴講され、質問されました。

習志野の歴史 に関する図書



書名：『習志野市史』
編集：習志野市教育委員会
出版社：習志野市
出版年：1995年
所蔵館：全館



書名：『ならしの風土記』
編集：習志野市企画調整室
広報課
出版社：習志野市
出版年：1980年
所蔵館：全館



書名：『わたしたちの郷土
習志野』
編集：習志野市企画調整室
広報課
出版社：習志野市
出版年：1979年
所蔵館：全館

中央図書館カレンダー (色の付いた日が休館日です)

○の付いた日：全館休館日
△の付いた日：東習志野・新習志野・谷津は図書整理日
のため休館（中央図書館は開館）



令和8(2026)年3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	②	3	4	5	△6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	⑬	17	18	19	20	21
22	⑳	24	25	26	27	28
29	⑳	31				

令和8(2026)年4月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	△3	4
5	⑥	7	8	9	10	11
12	⑬	14	15	16	17	18
19	⑳	21	22	23	24	25
26	⑳	28	29	30		

令和8(2026)年5月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	⑦	△8	9
10	⑪	12	13	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	23
24	⑳	26	27	28	29	30
31						

★編集後記★

今いるこの場所を江戸時代の地図で確かめる、貴重な機会となりました。

絵図を眺めながら当時の大久保に思いをはせるうちに、さらに深く知りたいという思いが自然と湧き上がってきました。

中央図書館報 としょかんの広場第31号(通巻115号)

発行日：令和8年3月1日

編集・発行：習志野市立中央図書館

電話：047-475-3213

<https://www.narashino-lib.jp>

